

片開きドア 施工説明書

更新日：2021/08/24

この度は、室内建具をご採用頂きまして誠にありがとうございます。

開梱時において、万一梱包や製品に傷などがある場合は施工前に購入先までご連絡をお願い致します。施工後のお申し出に対しては、当社としては責任を負いかねますのでご了承願います。


また、本説明書に基づき正しく施工頂きますようお願い致します。

目次

■各梱包内容	2
■施工手順	3~7
・開口部の確認、枠の固定	3
・丁番の取り付け、扉の吊り込み	4~5
・ケースロック、レバーハンドルの取り付け	6~7
■納まり図集	8
■使用上のご注意	9

■各梱包内容

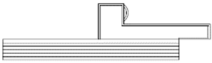



●扉本体 梱包内容

引き戸本体

1 枚


●金具 梱包内容

レバーハンドル
※別紙 5 ページ参照
1 梱包

●片開きドア枠 梱包内容 (セット品番 : XD~)

戸先側縦枠	吊元側縦枠	部品箱	丁番
			
1 本	1 本	1 箱	1 組 (上用 1、下用 1) 左右兼用

●部品箱 梱包内容 (品番 : TR-D)

縦枠固定ねじ

コーススレッドスクリュー 3.8×51
12 本

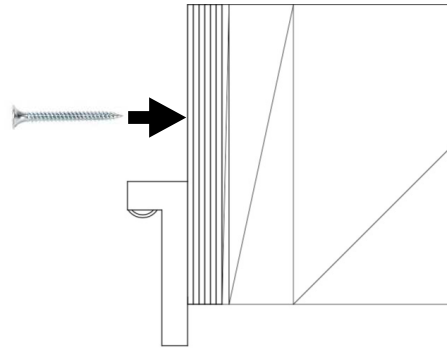
1. 開口部の確認

- 開口部の垂直・水平を正しく出して下さい。
- 開口寸法と製品寸法を照合確認して下さい。
- 納まり図を参考に開口部の寸法を確保してください。

	下地枠外 W
W755	755mm
W800	800mm
W650	650 mm

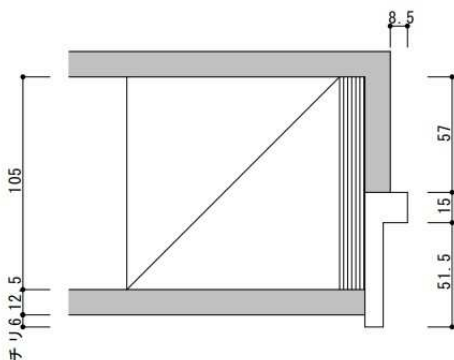
2. 枠の固定

- 1、パッキン材と接着剤（現場調達）を用いて、調整した開口部に組み立てたドア枠を仮固定して下さい。
- 2、水準器、下げ振りを使用してドア枠の水平・垂直・ねじれ・膨れを確認、調整してください。
- 3、縦枠を同梱のビスを用いて躯体にしっかり固定してください。

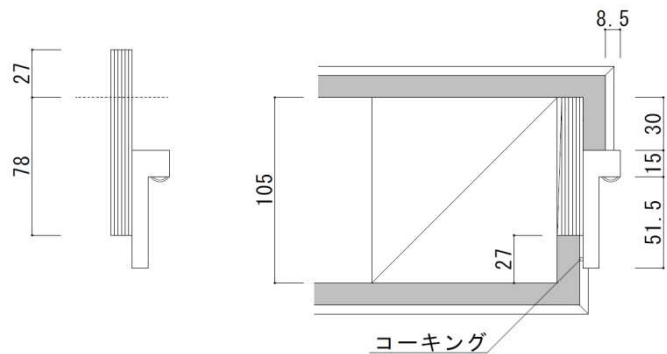


■ 枠の取り付け位置について

- 標準取付位置（突付タイプ） 【柱 105】
枠材に取り付け済の下地材の面と柱の面を合わせてください。



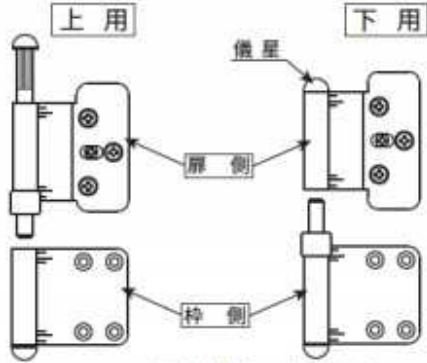
- 巾木の中に入れる場合（巻込タイプ） 【柱 105】
中に入れる寸法に合わせて枠下地をカットしてください。
枠を中に入れすぎると扉が 90 度以上開かなくなるので注意して下さい。



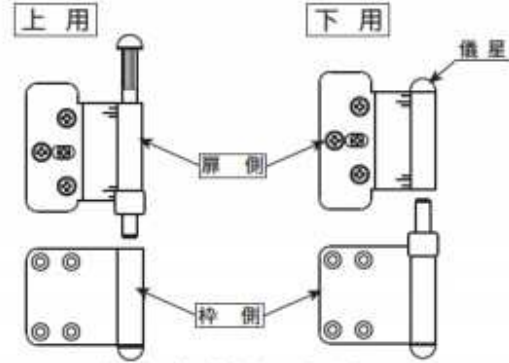
3. 扉の吊り込み

蝶番の取付方法

【右勝手の場合】※出荷時は右勝手です

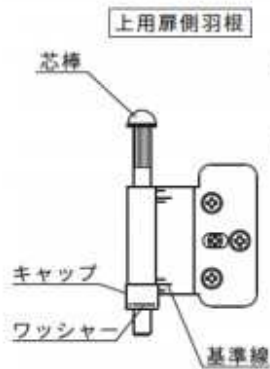


【左勝手の場合】※右勝手を組み替えてご使用ください



下用の扉側蝶番の儀星はプラスチックのハンマーなどで打ち込んでください。

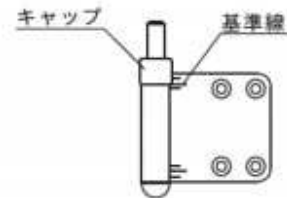
【蝶番を取付ける時の確認事項】



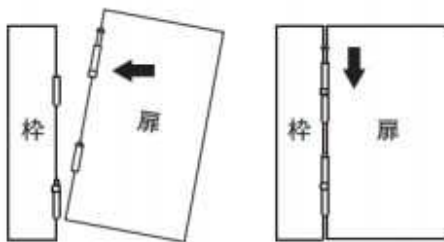
- ①キャップの上端を基準線（長い線）に合わせて取付けます。
- ②キャップの内側にSUS製のワッシャーをセットします。

【下用枠側羽根】

- ①キャップの下端を基準線（長い線）に合わせて取付けます。



【蝶番の取付け】



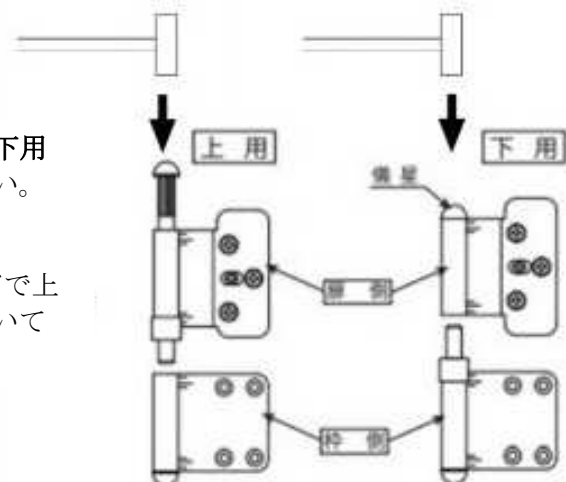
- ①下用枠側蝶番の軸に下用扉側蝶番を差し込みます。
- ②扉を起こして、芯棒をプラスチックのハンマー等で打ち込んで吊込み完了です。

1911

芯棒（上用）及び儀星（下用）打ち込み

※壁や天井に傷つかないように養生を行い、上用・下用ともに真上からしっかりと打ち込むようにして下さい。

※扉を外す時、扉を90度開いても天井にあたるなどで上用丁番の芯棒が抜けないときは上部丁番のビスを抜いて取り外して下さい。



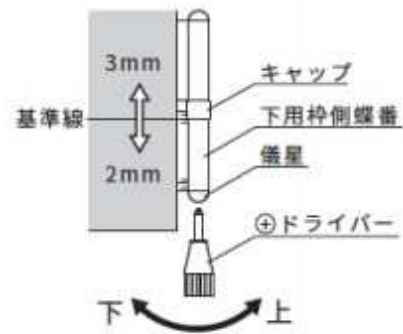
蝶番の調整方法

上下の調整 ※下用蝶番のみ

下用枠側蝶番の儀星に④ドライバーを差し込んで調整します。

時計方向に回すと——扉が上がる（上に3mm）
 反時計方向に回すと——扉が下がる（下に2mm）

⚠ 扉の荷重は下用の蝶番で受けてください。
 上用の蝶番で受けますとキャップの破損及び
 芯棒のせり上がりの原因になります。

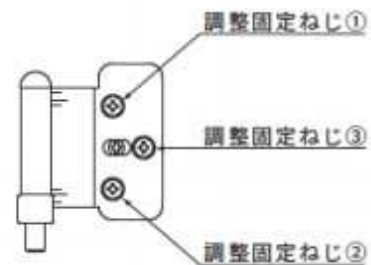


左右の調整

扉を吊元側に寄せる [調整幅 2.5mm]



- 1) 調整固定ねじ③を緩める。
- 2) 調整固定ねじ①と②で調整を行なう。
- 3) 調整後、①②③をしっかり締める。

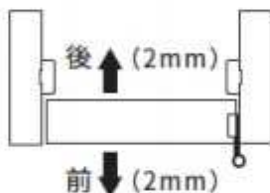


扉をラッチ側に寄せる [調整幅 2.5mm]

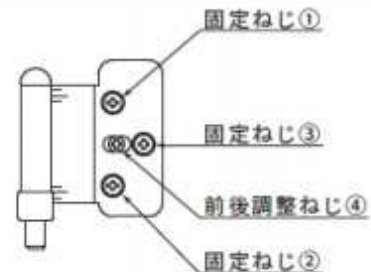


- 1) 調整固定ねじ①と②を緩める。
- 2) 調整固定ねじ③で調整を行なう。
- 3) 調整後、①②③をしっかり締める。

前後の調整

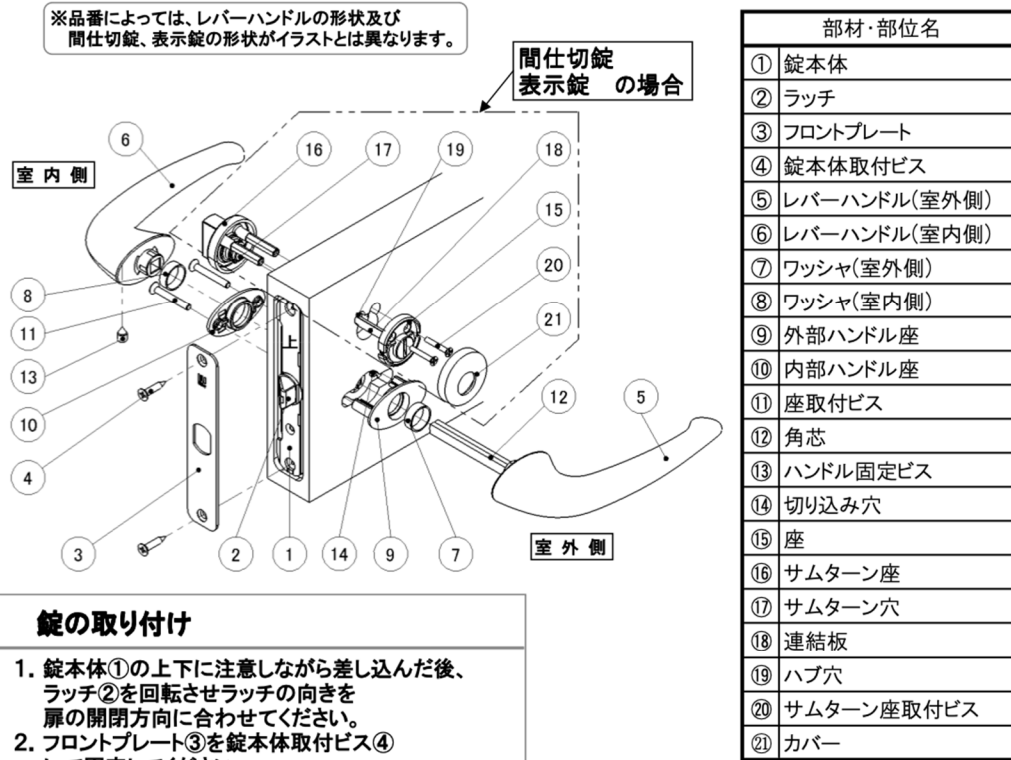


- 1) 固定ねじ①と②を緩める。
- 2) 前後調整ねじ④をまわし調整する。
- 3) 調整後、①②③をしっかり締める。



4. ケースロック、レバーハンドルを取り付け

●WEST 製



錠の取り付け

- 錠本体①の上下に注意しながら差し込んだ後、ラッチ②を回転させラッチの向きを扉の開閉方向に合わせてください。
- フロントプレート③を錠本体取付ビス④にて固定してください。

レバーハンドルの取り付け

- 外部ハンドル座⑨を切り込み穴⑭に挿入してください。
- 室内側より内部ハンドル座⑩をはめ込み、座取付ビス⑪で固定してください。
- レバーハンドル⑤、⑥にワッシャ⑦、⑧を差し込み後、内外ハンドル座⑨、⑩にセットし、レバーハンドルが正常に作動するかを確認したうえ、ハンドル固定ビス⑬にて固定してください。

間仕切錠,表示錠の取り付け

- 座⑮の連結板⑱をハブ穴⑲に挿入してください。
- サムターン穴⑰にハブ穴⑲を貫通してきた連結板⑱を挿入しサムターン座取付ビス⑳で固定し、正常作動するかを確認してください。
- 操作がスムーズであればカバー㉑をはめ込んでください。

⚠ 注意

レバーがたつき防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実に締めてください。

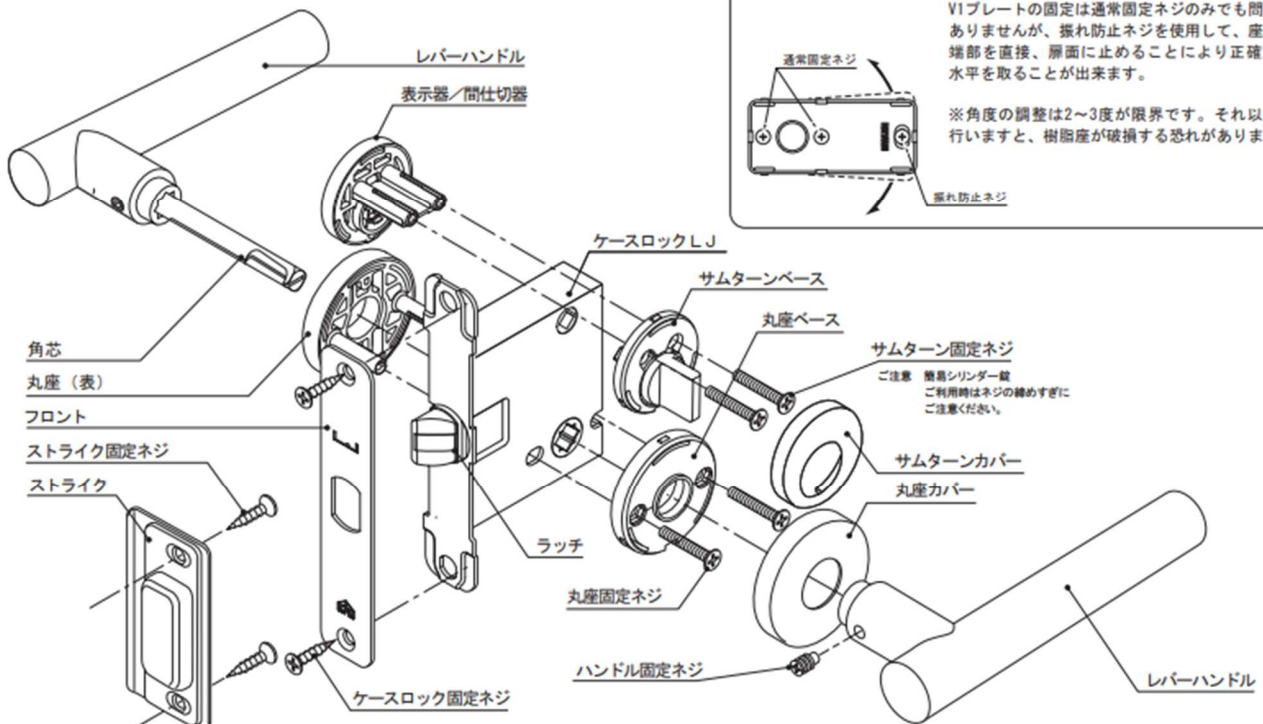
- 取り付けビスを締めるとき、化粧座とレバーハンドルの間にすき間がないかご確認ください。すき間があると、がたつきの原因となります。
- 電動ドライバーを使用する際はご注意ください。ハンドルの動作不良、がたつきの原因となります。

●ストライクの調整方法

ラッチのかかりが悪い、かからない場合、ストライクを調整してください。
写真のマル印部分のビスを左右に動かすことでストライク内のケースが左右に動きます。

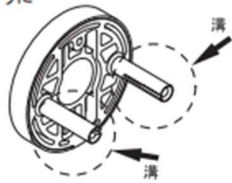


●KAWAJUN 製



●プレートの取付け

プレートの取付け座(樹脂製)及び、表示器のボスには溝が切っています。このタイプの取付け座は締め終わりを「カチッ」と音で知らせるようになっています。



取付けのポイント:

締め込んでいき「カチッ」と鳴った後、さらに約半回転を目安に、動作を確認しながら締めこんでください。

※「カチッ」と「カチッ」の間で止めます。



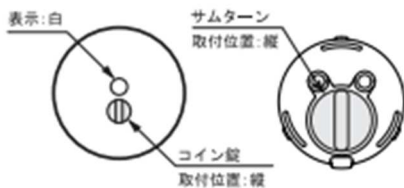
KAWAJUN

取付前の調整

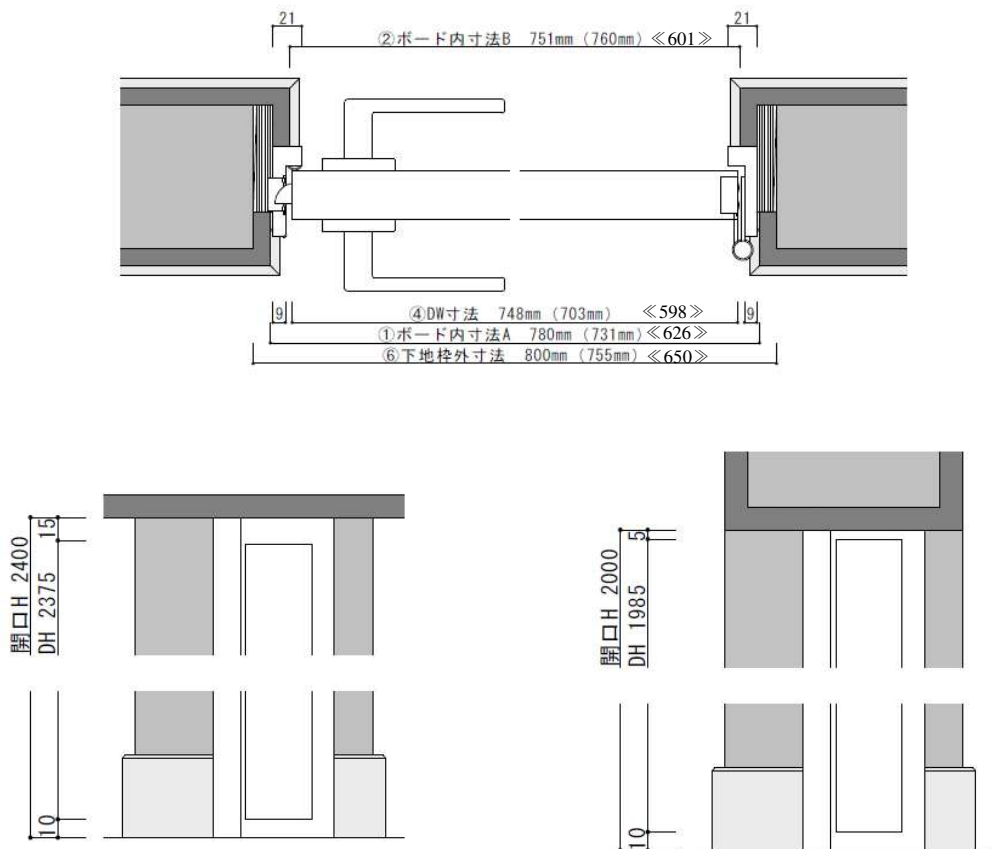
表示・サムターン取付位置

ケースのラッチが開錠状態(ラッチが引込む状態)のときにサムターン、コイン錠は最初に本錠位置の状態に設置してください。

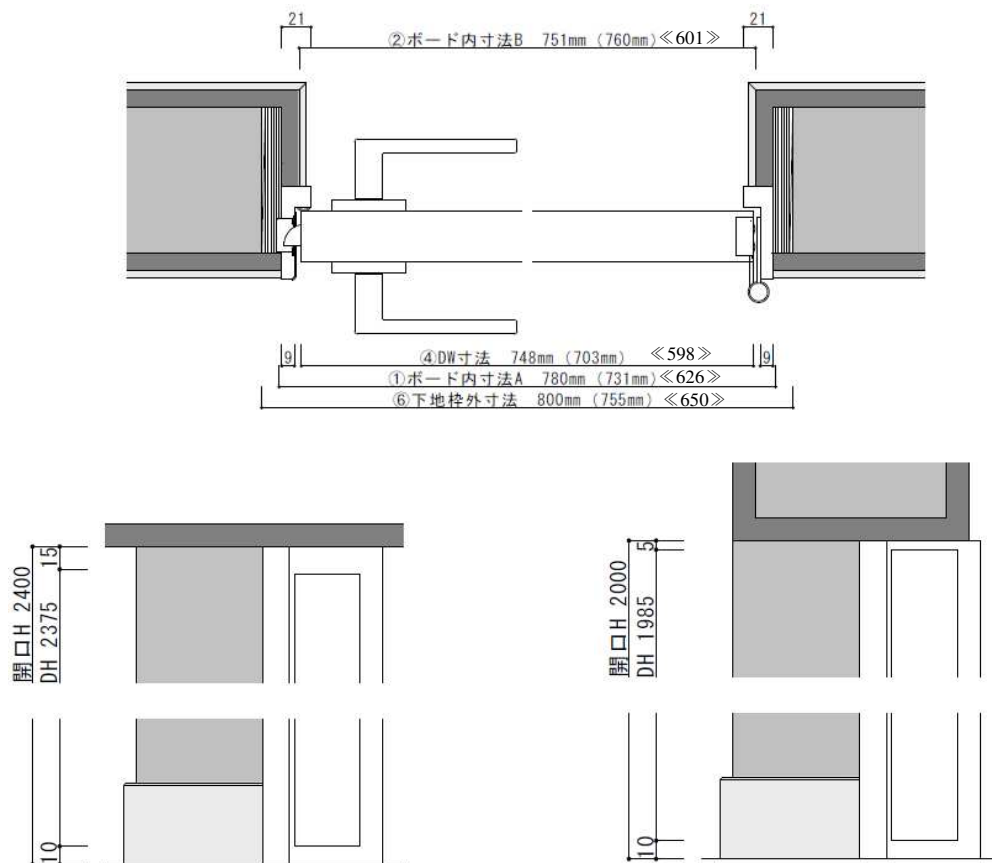
※取付け後に正常に機能しなくなる恐れがあります。



●クロス巻込タイプ





●クロス突付タイプ





■使用上のご注意

●人への危害や財産の損害を防止するために、必ず下記を守ってください。


 **警告** 「死亡や重症を負うおそれがある内容」です。

 してはいけない内容です。


 **注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

 実行しなければならない内容です。

警告

 ・ドアやレバーハンドルにぶら下がらない
ドア本体が転倒してけがをするおそれがあります。

注意

 ・二人以上で作業する
一人作業では商品の転倒などによりけがをするおそれがあります。
・必ず付属の金具・ねじで施工する
商品を実際に固定できず、破損・落下・転倒によりけがをするおそれがあります。
・ねじで部品・部材を固定する場合は、電動ドライバーなどで締めすぎによるねじの空回り、ねじ頭のつぶれがないようにする
ドア本体などが転倒してけがをするおそれがあります
・枠、丁番を躯体へ確実に固定する
商品や部品・部材を実際に固定できず、破損・落下・転倒によりけがをするおそれがあります。

■ 施工上のご注意

- ・ひっかき傷・打痕などには十分気をつけてください。
- ・湿気の多い場所には施工しないで下さい。本体の反りや作動不良の原因となります。
- ・建築完了まで、ダンボールや養生材などで本体及び枠の養生をしてください。
※本体及び枠に直接粘着テープを貼らないでください。

■ 運搬、保管上のご注意

- ・製品の仮置きや保管は、湿気や直射日光のあたる場所を避け、床面が水平な場所に平置きしてください。
立てかけておくと、反りや変形の原因となります。
- ・運搬、荷降ろし時は、商品の角からの落下や打ち当てによる傷や変形に注意してください。
- ・直接日光の当たる場所に置かないでください。日焼けの原因になります。
- ・表面材がはがれる恐れがあるため、直接養生テープなどを貼らないでください。突板の扉は部分的に養生を行う。
養生していないところだけ日焼けする恐れがあるので部分養生をしないでください。

■ お手入れ方法について

- ・特に細かなお手入れの必要はありませんが、汚れが気になる場合は、固く絞った雑巾で拭いていただき水分が残らない様に乾拭きしてください。汚れがひどい場合には、固く絞った雑巾に中性洗剤を少し染み込ませて拭いて、水分が残らない様に乾拭きしてください。
- ・突板の扉の表面はオイル仕上げです。メンテナンスでオイルを塗る場合は、サンドペーパーのかけすぎに注意してください。オイルは、アールジェイ株式会社のいろはを塗ってください。ブラックウォールナットなど変色した場合、いろはカラーで着色することも可能です。